

令和4年度越前市青少年問題協議会（書面会議） 意見、回答一覧

報告	内容	意見	回答
2-①	インターネットを利用できる環境づくり	既にデジタルネイティブの世代になっているため、家庭教育の重要性をいかに啓発していけるか、今年度の取り組みからも考察していけたら。 (※デジタルネイティブ＝子どもの頃や学生時代からネットやPCのある環境で育った世代)	県（県民安全課）や青少年健全育成福井県民会議等の活動、啓発事例も参考にして、より効果的な取り組みを進めていきたいと考えております。
2-①	インターネットを利用できる環境づくり	インターネット利用の低年齢化に伴い、今後の防犯教室の内容に反映させたい。学校や各機関で低学年生徒のインターネット環境や利用実態を把握した際には、関係機関で情報共有をお願いしたい。	「わが家のインターネット10か条」等の結果や内閣府等で発行する資料を、関係機関で情報共有を図っていきます。
2-①	インターネットを利用できる環境づくり	インターネットのフィルタリング設定は必須と考える。高学年になれば子供たちが自ら設定を外すことは可能であるため、家庭、学校で点検するなど徹底を図るべき。特に学校から貸与の機器は目的外使用を許すべきでない。	フィルタリングの有用性は高いもので、親子間で話し合い、設定することが重要であるので、子どもだけでなく、保護者向けの啓発にも取り組む必要があると考えます。 学校では、貸与の機器は、学習活動以外の利用は認めておりません。また、その利用方法や注意点を年度初めに指導しています。
2-①	インターネットを利用できる環境づくり	家庭での使用時間は、各家庭（保護者）が決めるべきと考える。インターネット使用時間を一律で問題視することに疑問を感じる。その上で、個人機器の使用は家庭が、学校機器の使用は学校が、それぞれの立場で責任を分担して子供を指導すればいいと考える。	長時間利用による弊害（勉強時間、健康問題など）について学識者からの意見がでています。このような研究、統計資料等を参考にして、家庭及び学校でインターネットとの付き合い方を考えてもらう啓発を行っています。

2－①	インターネット を利用できる環 境づくり	インターネットの問題点はあるが、日本全体としてデジタル化の取組みの遅れがはなはだしいことも認識するべき。	インターネットは、生活に密着しているものであり、必要不可欠なツールとなっている。 インターネットを否定することなく、インターネットの危険から守ることを目的とした啓発活動を実施していきたいと考えております。
2－②	見守る、育てる 地域環境づくり	見守り活動や街頭補導活動の継続的な実施のほか、不審者情報を認知した際、迅速な情報提供をお願いしたい。	見守り活動や補導活動で得た情報は、速やかに関係機関と情報共有、また補導委員等に連絡し、現場を付近の巡回等の活動を実施します。
2－②	見守る、育てる 地域環境づくり	小学生の見守りは、「地域の住民による声掛け」による日常生活（散歩、畑仕事、買い物等）の中での「ながら見守り」を推奨し、地区民総出で取り組むことが有効と考える（中高生については意見なし）。	多くの大人の目で見守る「ながら見守り」は、子どもの安全確保に有効な施策の一つであると認識しています。 「ながら見守り」の啓発を通じて、多くの市民の参加を促すとともに、地区の防犯意識の向上を図っていきたいと考えております。
2－②	見守る、育てる 地域環境づくり	福井県全体が高齢化しており、継続性が難しくなっている。継続性をどうやっていくか。	高齢化、定年年齢の延長により、特に夕方の見守り活動で、従事できる方の確保が難しくなってきているとの意見があることは承知しております。 自治振興会や青少年健全育成越前市民会議での呼び掛け及び広報媒体を通じて啓発活動を続け、多くの人の参加を促していきます。